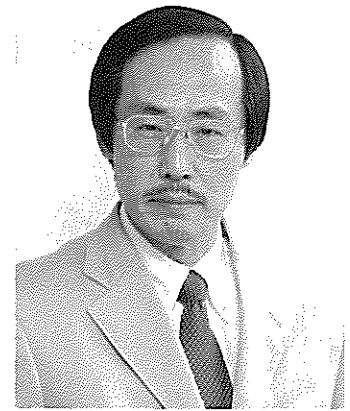


# 当社の目指す 研究開発について



専務執行役員  
CTO (最高技術責任者)  
**五十嵐信哉**

読者の皆様には日頃より本誌をご愛読いただき、誠に有難うございます。この場を借りまして御礼申し上げますと共に、当社が目指しております研究開発の方向性について一言述べさせていただきます。

先行きが見えない混沌とした経済環境が続いている中、自社ならではの将来予測に基づく戦略の策定、即ち自社の強みに基づいて独自の将来仮説を立てていくことが重要になっております。そのためには世の中のトレンドが揺れ動いても振れることのない基軸を持つことが大切であり、それは技術で言えばコアテクノロジーだと考えられます。

当社はガスケット・パッキン・Oリングなどのシール製品、フッ素樹脂に代表される機能樹脂製品、ペローズ・バルブといった真空製品など幅広い製品群を持っております。これらの製品群は四つのコア技術、即ち、“材料最適化技術”“製品設計技術”“成形加工技術”“製品評価技

術”によって支えられております。当社の将来事業はこれらのコンピタンスの増幅の延長線上にあります。

このコアテクノロジーから発信される当社の技術開発の展開方向は 1) 顧客への提供機能の拡大と 2) 組立型事業に向けてのバリューチェーンの拡大、の二つのベクトルに分けられます。前者の例としては半導体装置に広く使われおります“アーマーシリーズ” Oリングや全く新しい耐熱性のガスケットシートがあり後者には液晶製造装置用の大型ゲートバルブなどがあげられます。この他にも当社ならではの技術視点を持った新製品のラインアップが進んでおります。

この混沌の時代には改めて事業を差別化するコア技術の強化と成長エンジンとしての研究開発の重要性が増しております。皆様におかれましてはどうか技術のバルカーの将来を暖かく見守って下さるようお願い申し上げます。

